

山中俊治

YAMANAKA shunji

ブレードランナー
たちと共に見る夢義足デザインで
ロンドンパラリンピックを目指す

義足のスケッチ画

であるから美しい。しかし、工業製品はそれ自身のためにあるわけではなく、人にとって便利でなくてはならない。

この便利というのが結構やっかいだ。例えば、私たちの役に立つように品種改良を重ねてきた、まるまると太った食用家畜の姿からは、原種の野生動物が持つ躍動美はすっかり失われてしまっている。私たちに都合のいい物は必ずしも美しいものではない。工業製品を便利にすることや、安く作ることは人にとっても有益なことだが、それで工業製品が美しくなるわけではない。そこにデザイナーの苦悩がある。

しかしオスカー・ピストリウスの義足は、そうした苦悩を軽々と超えているように見えた。彼が履く人工の足は、ある意味で「便利」であるはずだが、彼の肉体と一体化することで完璧な美しさを醸し出していた。これこそ、人が作りし物の究極の機能美なのではないか。

その感動に誘われて、一昨年の秋から私は慶應義塾大学の研究室の学生たちと一緒にスポーツ用義足の情報を集め始めた。改めて北京パラリンピックでは様々な日本選手が活躍したことを知った。その選手たちにとっても信頼されている一人の義肢装具士がいる。その人の名は白井一美男。

義肢装具士とは、義手義足やサポーター器具を個人に合わせ製作する人のことである。私たちは、南千住にある鉄道弘済会義肢装具サポーターセンターを訪ねた。ここは全国各地でも最もたくさんの義足を作っている施設だ。内部を見学させてもらおううちに、リハビリの現場に出くわした。

ちょうど、走ることに挑戦し始めたばかりの少女がいた。義足を調整しながら指導する男性の声が、トレーニングルームに響く。少女は足を切断して以来走ることがないらしい。十メートルほどの距離を何度か往復するうちに、少しずつ速

歩きが駆け足に変わっていく。「おお、走ってる、走ってる！……走れたじゃん。」

一緒に走りながら明るく励ます声の主が白井さんだった。自転車の乗り方を教える父親のように見えた。

その日から私たちと義肢装具士、義足アスリートたちとの交流が始まった。

白井さんに勧められるままに、障害者スポーツの練習会にも参加した。最初は、グラウンドの隅の方から眺めていた。彼らの切実な状況に、デザイナーなど必要とされていないのではないか。そんな思いに身がすくんだ。

しかし、やはり本物は美しい。彼ら彼女らの走り、跳躍する様を夢中になってスケッチした。描き進めるうちに少しずつ問題点も見えてきた。

義足は、ひとつとして同じものはない。足の切断箇所や切断形状が一人一人違うからだ。個人のために、いろいろな大きさ、長さのパーツを組み合わせて作られる。そのジョイントパーツは、工業デザインの理想からは遠いものだった。現状では無骨なボルトがむき出しで使用され、カーボンのエッジすら仕上げられていないものもある。美しくないだけでなく、選手が転倒して、けがをする可能性もある。

そんな義足を選手たちは思い通りに装飾していた。花柄をプリントしたり、飾りを付けたり、黒と金の派手な絵柄のものもあった。

選手たちは、日常生活でもっと飾り気のない義足を使う。日常生活用義足は、むき出しのアルミパイプに本物に似せた形つま先がついた物で、ふだんは服の下に隠されることが多い。柔らかいウレタンの表皮をかぶせて全体を本物の足に見せることもあるが、いざにしても目立たせることはいらない。

用義足はハレの場のためのものなのである。私がスケッチしているのを見て、ある選手が声をかけてくれた。「絵を描かれる方ですか。」「いえ、工業製品のデザイナーです。」

私は自分が彼らを見てどう感じているかを懸命に話した。何をしたいか思っているかも。両足にブレードを履いたその青年は、にっこり笑って言った。「この脚をかくいって言ってもっとかっこいい義足が欲しいです。」

彼は北京パラリンピック自転車競技の銀メダリストだった。やれることがあるかもしれないと感じた瞬間だった。

スポーツという機能優先の世界では、選手たちも義足を隠すことをしない。観衆も眼を背けることなく、応援する。そこに本当に美しい義足があれば、選手たちと、見守る人々の気持ちを、もっと明るくすることができるとも思えない。

今年の春、ようやくスポーツ用義足の試作品が出来上がってきた。厚生労働省の支援を受けて、白井さんと、義足メーカーと一緒に開発したものだ。今数十人のアスリートたちにテストしてもらっている。まだまだ完璧にはほどい。まだまだ完璧にはほどい。まだまだ完璧にはほどい。

◆筆者はインダストリアル・デザイナー。腕時計から鉄道車両に至る幅広い工業製品のデザイナーである一方、技術者としてロボットなどの先端技術開発に従事。二〇一一年には、JR自動改札機「Suica」をデザイン。慶應義塾大学教授。

愛
書
狂

今年四月九日、井上ひさし逝去。「ひよっこりひょうたん島」主題歌をランドセル姿で歌い、文庫の『ブンとフィン』を自分のお小遣いで買った世代としては、井上の作家的成長が自分史と重なる▼筑摩現代文学大系に井上が収録された巻で、川本三郎が月報を書いている。七年「朝日ジャーナル」編集者時代、井上の担当になる。川本がある事件にまきこまれて逮捕、朝日をクビに。一カ月の留置所暮らしから出て来た時、留守宅に何度も井上から激励の電話をもらったことを知る。

「朝日のきれめが緑のきれめ」みたいな人間が少なくなかったので「川本はジンときた▼井上の手書き原稿の特徴は、稀にみる読みやすさだ。丸っこい柔らかな文字は人柄を表していた。原稿がたびたび遅れることから「遅筆堂」と名乗ったが、文字に乱れはなかった。川本の生原稿もていねいで編集者に喜ばれている▼自らの原稿の文字をそのまま印刷して月報としたのは「植草甚一スクラップ・ブック」。

植草は自伝のなかで、東宝の社員だったころ、印刷所の植字工程を目撃し、その苦勞を思いやって「それでぼくは原稿は楷書で大きく書くことにしたんだ」と記した。植字部から賞状をもらいたかった、とも▼右に挙げた三人に共通するのは、もの書きとして世に出る前に、いずれも前哨戦と呼べる苦闘の時期を持つ苦勞人だったこと。井上は若き日、浅草フランス座で幕の上げ下げからトイレの掃除までした。苦勞人は、編集者、植字工など裏方の苦勞を知る。かの石原慎太郎は悪筆で、文字を読み解く専門の植字工がいたそうだ。(野)

スポーツ用義足を初めて見たのは映像の中だった。両足の膝下が人工物に置き換えられる感じがたいスピードで走り抜ける異形のランナーに私の眼は釘付けになった。

そのランナー自身の肉体は脛の辺りで終端となっていた。代わりにふくらはぎの後ろに接続された炭素繊維のプレートが、ネコ科の動物のつま先を思わせるカーブを描いて、地面に着地している。スキー板にも似た、そのしなやかなプレートの弾力を巧みに使って送り返される高速の足先は、その薄さゆえにほとんど映像から消えてしまう。その滑らかな走行は、飛んでいるようにさえ見えた。

最新のテクノロジが生み出した高性能の装置が人体に装着され、一体となって疾走するといふ、まるでSFの世界のできごとのようなシーンだった。彼の名はオスカー・ピストリウス。刃物のような足に敬意を込めて「ブレードラン

ナー」と呼ばれる。南アフリカ出身で北京パラリンピックの陸上競技(下腿義足クラス)における百、二百、四百メートルの金メダリストである。

先天的に下肢の骨格の一部が欠如しており、一歳になる前に両足を膝下で切断した。その後、水泳やラグビーなどを経て今日に至る、世界最強の義足アスリートだ。

私は、彼の肉体と義足の関係に人と人工物の関わりを理想を見たように感じていた。私たちがインダストリアル・デザイナーは、乗用車や家電などの工業製品の、機能と美しさのバランスを取ることにいつも苦勞している。生物のデザインは機能美のお手本であるといふのはよく言われる。機能を突き詰めれば自然に美しいものになるから、工業製品もそういう風にデザインしませうという意味だ。

しかし、現実はそのほど単純ではない。生き物は、それ自身が生きることに加えて忠実

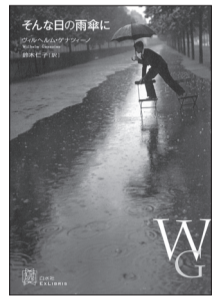
そんな日の雨傘に

【エクス・リブリス】第9回配本
ヴィルヘルム・ゲナツィーノ「作」

重いけれど軽やかな、「靴男」の果てしないモノローク。「自分が許可してもいけないこの世に在る」という気分から逃れることができない、四十六歳、無職の主人公は、何をしてもなく、「人生の面妖さ」に思いをめぐらし、平凡で、どこにもある、様々な路上の出来事に目を留める。地下道のホームレスの男たち、足元に置かれた他人のトランク、サーカスの娘と馬

46歳、無職、どこにも居場所がない...

ペニス……。そのたびにどりとめのない理想が脳裏をよぎり、子ども時代の光景がなごとなしに思い出され、なにげない言葉が心に引っかかる。遊歩の途中でつぎつぎと出会うのは、過去になんらかの関係を保持した中年の女たち……彼女らの思い出がふつと浮かんできてくる。主人公がなにかから気をそらすように歩き回るのは、同棲していた女が愛想を尽かして出て行ってしまったからだ。しかも靴を試し履きする臨時収入が減り、生活もままならなくなってきた



ISBN978-4-560-08010-7

作家は本書で一躍注目を浴び、二〇〇四年にドイツ最高の文学賞《ビューヒナー賞》を受賞している。
◇鈴木仁子訳 四六判 一九七頁 定価二二〇〇円（本体二〇〇円）

来々来々

本谷有希子「作」



ISBN978-4-560-08080-1

岸田國士戯曲賞受賞 第一作

到来を告げるキャラクターが誕生！ すぐすぎる物語設定で舌を巻かせてくれる。岸田國士戯曲賞受賞第一作。新婚一ヶ月たらずで旦那に失踪されてしまったという、元自衛隊員の蓉子。嫁ぎ先には野鳥狂いの姑に、いじわる小姑。鬱憤ぶつけられ放題の日々に、新妻・蓉子は、ひたすら耐えている。とびきりの「褒美」を待ちながら。「ひたすら健気で前向きで、それゆえに常軌をかわいく逸してしまふけど、頑張りすぎ

ることでしか生きていけない人だ。世の中にはいるよね。」「……」駄目なだけで、あることをしなきゃ生きていけない人達を書いているのが、やっぱり私は好きなんだろうね。」（本書「あとがき」より）
山奥の魅揚げ工場に集う、6人の女達。じつに曲者揃いの登場人物のなか、「過酷な環境ほど自分つて成長できるんだよ」と、自分磨きの旅をつづける蓉子のマニアックぶりをとくとく堪能あれ。
舞台写真&複製本俊二さんに
よる特別寄稿漫画も収録。
◇四六判 一六六頁 定価一七八五円（本体一七〇〇円）

図書室からはじまる愛

パドマヴェンカトラマン「作」

一九四一年、インド。お嬢様として育てられた十五歳のヴィドヤは、尊敬する父親が独立運動のデモに巻き込まれ、重傷を負ったことで生活が一変。親戚の家に同居し、苦しい日々を送ることになる。
家でも学校でも激しいいびりを受け、貧しい食事でこき使われる毎日。それにもまして辛いのは、父親を侮辱されること、その侮辱が部分的には事実であること、そして家族をこの苦境に陥れた原因を作っ

本を読んでは いけませんか？

たのは自分なのだという自責の念だった。
そんなある日、屋敷内の禁じられた図書室へ忍び込んだことがきっかけで、ヴィドヤは人生に希望を見だしていく。読書を通じて人生の目標をもつらぬくべきか――
激動の時代を背景に、家族の絆、友情、結婚、読書、自由祖国、人類……さまざまな種類の「愛」について、青少年の視点から語った物語。
◇小梨直訳 四六判 二六〇頁 定価二二二〇円（本体二二〇〇円）



ISBN978-4-560-08073-3

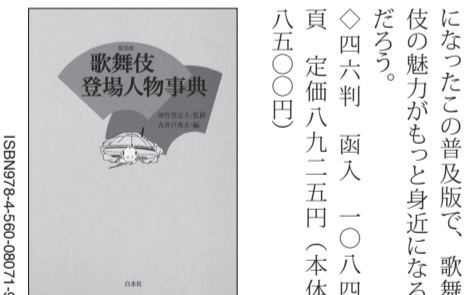
歌舞伎登場人物事典【普及版】

河竹登志夫「監修」 古井戸秀夫「編」

歌舞伎の登場人物は、菅原道真や義経、弁慶、静御前、大石内蔵助などの歴史上の人物から、幡随長兵衛、八百屋お七など、江戸時代の市井の男女まで多種多彩。弁天小僧のようなきわめて史実に近い人物もいれば、一谷で討たれた敦盛がじつは敵將熊谷直実の息子だったというような、奇想天外なフィクションもある。歌舞伎のおもしろさのひとつは、登場人物にみるこうし

主役から脇役まで 2300人を網羅

た自由奔放な発想にあり、そこにまた、日本人が歌舞伎に託した夢と願望を見とることができ。本書典は、そうした重要性をにう登場人物、主役から彼らを支える脇役まで二千三百余人を五十音順に並べたもので、人物の成り立ち、性格、舞台での役どころや演技の型はもとより、衣裳・化粧・髪、役者の個性による表現の多様性まで、役柄に応じて具体的に記述されている。



ISBN978-4-560-08071-9

幸福立国ブータン 小さな国際国家の大きな挑戦

大橋照枝「著」



ISBN978-4-560-08087-0

経済の発展だけでは幸福度は測れないと考える人が増えてきた。GDP（国内総生産）一辺倒の考え方にも批判の声は多い。交通事故や環境破壊が生じても、そこに金銭的支払いが伴えばGDPは大きくなるという矛盾がある。私たちの暮らしに密着した新しい尺度が必要なのだ。そんな中、数十年來GNH（国民総幸福）を唱えて政府・行政が一体となって新しい国づくりに取り組んでいる国がある。ヒマラヤの小国ブータンだ。国づくりは、精神面の幸福、

GDPからGNHへ

（国内総生産） （国民総幸福）

健康、教育、文化・環境の多様性、時間の使い方、良き統治等、九つの指標を定めて進められている。〇八年には、国民の基本的人権、言論・思想の自由ばかりか、国王の六五歳定年制や日本国憲法にもない「民主主義」「環境権」の文言をも盛りこんだ憲法も施行され、世界でもっとも新しい立憲議会制民主主義国となった。国民の97%が「幸せ」と答えているのは驚きだ。
本書では、持続可能性から見た従来の社会指標の総チェックもはさみながら、GNHに込めた前国王や政府要人の理念と実践、国際社会に向けて積極的に発信するその姿を多角的に紹介している。雑誌や旅行書では知り得ない姿が明らかとなる。
◇四六判 一八九頁 定価一九九五円（本体一九〇〇円）7月中旬刊

朝日新聞・NHK週刊ブックレビュー等で絶賛の話題作

哲学者とオオカミ 愛・死・幸福についてのレッスン

マーク・ローランズ著 今泉みね子訳



気鋭の哲学者が仔オオカミと出会い、共に生活しその死を看取るまでの驚異の報告。野生に触発されて著者は思索を深め、人間存在についての見方を一変させる画期的な研究を結実させている。◇定価二五二〇円（税込）

没後ますます評価の高まる鬼才による最高傑作

《エクス・リブリス》

野生の探偵たち 上・下

ロベルト・ボラーニョ作 柳原孝敦、松本健二訳



謎の女流詩人の行方を探してメキシコ北部の砂漠に向かった二人の若き詩人。その足取りを証言する、五十余名の人物の声。チリの鬼才による、初の長編にして最高傑作。◇各定価二九四〇円（税込）

文豪が築き上げた文学賞・演劇賞選考の金字塔！

井上ひさし全選評 井上ひさし著



三六六年にわたり延べ三七〇余にのぼる文学賞・演劇賞の選考委員を務め、比類なき読み込みの深さで新人を世に送り出し、中堅をさらなる飛躍へと導いてきた現代の文豪が築き上げる一大金字塔。◇定価六〇九〇円（税込）

ルネサンス・ヴェネツィア絵画

ピーター・ハンフリー「著」

ルネサンス期、フィレンツェとは異なる独自の展開を遂げたヴェネツィア絵画。約二〇〇点の作品を鑑賞しながらその過程を辿る、ルネサンス・ヴェネツィア絵画入門の決定版。ヴェネツィアの主導的画家



ティツィアーノの時代と 美術の全貌

ティツィアーノは一五四五年、作品を教皇に届けるため、初めてローマを訪問した。輝くばかりの鮮やかな色彩と光の効果が満ちた作品は、ヴェネツィア派の特色を誇示していた。ローマに住むミケランジェロはティツィアーノと会い、賞賛しながら不足点を指摘。その場面も本書に詳述されている。ヴェネツィア絵画にこうした特徴を導入したのは、ティツィアーノが最初ではない。一五〇〇年にヴェネツィアに滞在したレオナルド・ダ・ヴィ

ンチから影響を受けたジョルジョーネ、それに続いたティツィアーノ、フィレンツェの「素描」とヴェネツィアの「彩色」両方を目指したティントレット。十五、十六世紀のヴェネツィア内外の画家たちの交流と影響関係が本書には鮮やかに描き出され、ヴェネツィア絵画の変遷が辿れる。またヴァザリの『列伝』に匹敵する同時代の芸術批評が多数織り交ぜられていることにも注目。画家の略伝付。ヴェネツィア旅行に必携の書。◇高橋朋子訳 A5判 三二二頁十カラー口絵 八頁 定価四八三〇円（本体四六〇〇円）7月下旬刊

【忍ち重版】新聞各紙書評で大反響！話題の本



井上ひさし全選評 井上ひさし著

三六六年にわたり延べ三七〇余にのぼる文学賞・演劇賞の選考委員を務め、比類なき読み込みの深さで新人を世に送り出し、中堅をさらなる飛躍へと導いてきた現代の文豪が築き上げる一大金字塔。◇定価六〇九〇円（税込）

増田幸弘「著」

シユタイナー学校では、ま
ずロウソクに火をともし詩
を朗読することから授業は始
まる。教科書もテストもない。
「エポック」と呼ばれる二時
間の集中授業が一月ほど続
く。記憶力を競うのではなく、
絵や音楽を多用し、イメージ
とストーリーで体に染み込ま
せていく。

二児の父である著者は
二〇〇六年、一家で日本を離
れてチエコ首都プラハに移り
住んだ。本書は、小学生と中
学生の子どもたちが通うこと
になった公立のシユタイナー学
校の一風変わった教育を、学
校生活を通して生き生きと描
き、教育とはなにかを問い、
一度壊かけた家族の絆を取り
戻していく記録である。

日本にいたときは学校生活
のつらさに顔をゆがめ、サボ
り気味だった子どもたちが、
言葉の壁を克服するとともに、
やがて自主的に宿題に取り組
み、楽しそうに登校するよう
になる。この変貌ぶりには、

「自発性を育む学校」のユニークな教育



誰もが驚きを覚えることだろ
う。そこには、日々、試行錯
誤を繰り返す、生徒と家族同
様に接する教師たちの熱意と
愛情、高い職業意識があった。
一方、この学校は「学校改革」
という変化の大波にのみ込ま
れようとしていた……。

本書は、単なるシユタイナー
教育の紹介にとどまらず、オ
ルタナティブな教育のあり方
のヒントとなり、日本におけ
る公教育のあり方を問いかけ
るルポでもある。

本田由紀氏（東京大学大
学教育学研究科教授）推薦！
「本書は、教育について日本で
当然視されている諸前提を心
地よく揺さぶってくれる。」
◇四六判 二二六頁 定価
一八九〇円（本体一八〇〇円）

フェリーニ 映画と人生

文化的表象として「道化」
が語られなくなって久しい。
日々の生活で「芸人」を目にす
る機会があっても、そもそも「道
化」はその姿をみかけない。
「世界はサーカス。人は道化
師だ。」こう喝破した本書の主
人公フェデリコ・フェリーニが一
貫して問い続けたのはまさに文
化表象として道化が切り開く
可能性だった。本書はそんな
フェリーニに寄り添ったことで、
親友が綴った評伝という次元
を超えて、すぐれた戦後社会
論ともなっている。

イタリア・ファシズム体制、
「無防備都市」、戦後の闇市の
暗がり……そんな圧制や混乱
のなかで人々は、権力に面従
腹背で臨み、隣人を「ペン」に
かけ、その日その日を生きざるを
えなかった。だれもがいわば「道
化師」だったのだ。

フェリーニが無意識のうちに
カメラに収めていたのは、ま
さにそんな光景だった。もちろ
ん、一九五〇年代以降の高度
経済成長は、そうした「芸人

に黄昏をもたらす。
復興のなかで人々が未曾有
の繁栄を謳歌する反面、失わ
れたものは大きかった。道化の
背後には農民世界が広がっ
ていたからだ。

消えゆく「道化」への眼差し



もちろん、評伝としても興
味深い。頁を開けば、陽気で
放埒なあの面々と再会できる
はずだ。

◇押場靖志訳 四六判
六六六頁十口絵二六頁 定価
六九三〇円（本体六六〇〇円）

ヴェルサイユ宮殿に暮らす 優雅で悲惨な宮廷生活



フランス貴族社会の象徴、
ヴェルサイユ宮殿。十八世紀、
ここには王を頂点に千人以上の
人が暮らしていた。豪華絢爛
な外観、贅沢な食事、着飾っ
た女性たち、舞踏会や音楽会
……。華やかな宮廷生活が思
い浮かぶが、本書のテーマはこ
うした表の顔ではなく、より人
間くさい日々の営みにある。著
者は残された書簡や官僚機構
の報告書などを精力的に読み
込み、ヴェルサイユ宮殿での実
際の暮らしをひもといてゆく。

宮殿の内部は二百二十六の
居室からなる巨大迷路の様相
を呈していた。広さ・設備とも
許容量を超える人数が暮らす
なかで、個人のプライバシーは
守られていたのか。千人分の食

事はどのように準備され、どの
ように消化されていたのか。
安全な飲料水は確保できてい
たのか。入浴や排泄はどのよう
にしていたのか。広大な建物を
どのように掃除していたのか。
大量の洗濯物はどこで洗い、ど
こに干していたのか。華やかな
イメージとは裏腹の驚くべき事
実が次々と明かされる。

フランス宮廷生活の実態とは

貴族たちの日常生活は、王
の絶対権力のもとに儀式化・ヒ
エラルキー化されていた。なに
ごとにも許可が必要な日々の
暮らしのなかで、請願の手紙に
対するにべもない返事など貴族
たちの苦勞がしのばれると同時
に、通達を守らずたくましく
生きていた様子も浮かがる。

当時の物価をはじめとする具
体的な数値がふんだんに盛り
込まれ、史料としても読み応
えがある。本書を読めば、ヴェ
ルサイユ宮殿が今までとは違っ
て見えてくるであろう。

◇北浦春香訳 四六判
二四四頁 定価二五二〇円（本
体二四〇〇円）

毛沢東 ある人生 (上・下)

フィリップ・ショート [著]

(上) ISBN978-4-560-08081-8
(下) ISBN978-4-560-08082-5



二十世紀の巨人の実像に迫る！

毛沢東は、中国共産党の
創立メンバーであり、中華
人民共和国の建国の父でも
ある。一九七六年に亡くなる
まで最高権力者として君臨
し、その多大な影響は、繁
栄を謳歌する二十一世紀の
中国にも深い影を落としてい
る。本書は「ポルポト」(下
欄参照)を著したBBCの
ジャーナリストが、新資料と
綿密な取材を基に、毛の誕
生から死後までを詳細に描

いた、伝記の決定版だ。
一八九三年、毛沢東は
湖南省の田舎に生まれた。
一九二二年、上海で中国共産
党創立大会に参加、コミン
テルンの指導のもと国共合
作をすすめるが、二七年の
上海クーデターで崩壊。国
民党軍に追われて「長征」
を開始、三七年に始まった
日中戦争では第二次国共合
作を行い、抗日運動を続け
る。四五年、日本の降伏後
は国民党軍を駆逐、中華人
民共和国の建国を宣言した。
その後は「百花斉放、百家
争鳴」運動で批判的な知識
人に対する反右派闘争を開
始、「イギリスを十五年以内
に追い越す」ことを目標と

した「大躍進」政策、農村
での「人民公社」政策はい
ずれも失敗。やがて、「文化
大革命」の大波に巻き込ま
れてゆく……。
毛の本質は、気まぐれな
暴君ではなく、老獪で陰湿
な裏工作が果てしなく紡が
れる、二筋の論理をもった恐
ろしさにある。本書はその様
を当時の世界情勢の中にも
位置づけ、偏見や扇情を排
し、毛の変化と成長、思想
の変遷を丹念にたどった、本
格的な伝記といえるだろう。

◇山形浩生、守岡桜訳
四六判 7月中旬刊
(上) 四四一頁十口絵八
頁 定価二九四〇円（本体
二八〇〇円）
(下) 五二六頁十口絵一六
頁 定価三二五〇円（本体
三〇〇〇円）

連句遊戯

笹公人、和田誠 [著]

ISBN978-4-560-08079-5



片や新進気鋭、バンドの
作詞・作曲・ボーカル担当。
NHKラジオDJでも人気
の三十五歳の歌人。
片や名手、幅広い活躍で
知られる七十四歳のイラス
トレーター、グラフィックデ
ザイナー。
父親と息子ほど歳の離
れたこの二人がどういっ
つか意気投合し、このたび

二年間にわたって歌仙を巻
いた。
素人とあなごるなけれ
しろさが二人の異才によっ
て築かれていく。冊。まさに
専門家顔負けの「究極の連
想ゲーム」といえるよう。
遊びは遊びらしく、きち
んと形式にのっとり、発句
から俳句まで春夏秋冬新年
を織り込みながら、「ネッ
シーの巻」「ラム酒の巻」「座
敷わらしの巻」「闇汁の巻」
「中華まんの巻」と両吟は
続いていく。
たとえばこんな具合だ。
遠ざかるネッシーの尾や春
の窓

騒ぐ水あり笑う山あり
(和和)
春雷に海底のムー浮かび出
て
大停電は地上を覆い (和和)
満月や遠く遠くのそば屋ま
で (笹)
何故か案山子もついでくる
道 (和和)
ネッシーがいつの間にか案
山子になり、その後もスター
ウォーズ、プッチーニと発展
していく。まさに尽きること
ないイメージの飛躍合戦が
繰り広げられていく。
連句や歌仙を巻きたいけ
れど、ちよと敷居が高いと
躊躇している読者には、ま
さにうつつの楽しみ方指
南書だろう。

◇四六判 一九九頁 定価
一八九〇円（本体一八〇〇
円）7月中旬刊

白水社の本棚



パオロ・ニコロソ著／桑木野幸司訳
建築は映画と並んで権力を演出する有効な手
段として機能してきた。本書はファシズムの
建築思想を詳細な資料と豊富な図版をもとに
語る。
定価4830円(税込)



S.S.モンテフィオーリ著／松本幸重訳
命知らずの革命家、大胆不敵な犯罪者、神学
校の悪童詩人、派手な女性関係……誕生から
十月革命まで、謎に包まれたスターリンの前
半生に迫る。
定価5460円(税込)



S.S.モンテフィオーリ著／染谷徹訳
「人間スターリン」を、最新史料から描き出す。
独裁の確立から最期まで、親族、女性、同志、
敵の群像を通して、その後半生に迫る。
上・定価4410円(税込) 下・定価4830円(税込)



フィリップ・ショート著／山形浩生訳
闇に包まれた圧政者の生涯を追いながら、ク
メール・ルージュと虐殺の真相、大國や近隣
國に翻弄されるカンボジアの悲劇に迫る決定
版。図版多数。 定価7140円(税込)

権力者の肖像

お知らせ

★『ハサウェイ・ジョウンスの恋』が課題図書に選出
小社刊『ハサウェイ・ジョウンスの恋』が、第56回青少年読書感想文
全国コンクール(社団法人全国学校図書館協議会・毎日新聞社主催)
の課題図書(高等学校の部)に選出されました。
カティア・ペーレンス著／鈴木仁子訳
『ハサウェイ・ジョウンスの恋』
金の発見でにぎわうアメリカ西部の開拓時代。
「物語」の得意な少年が、少女にふきつちよな初
恋をした! 二人を待ち受ける思いもかけない
殺人事件と運命とは? 定価1785円(税込)

★2010年版『ブックカタログ』『新書カタログ』ができました
一般書(新書・語学参考書以外の全刊行物を収録した「ブックカタログ」
には柳下毅一郎さんによる巻頭エッセイ「本を食って生きていく」、白
水Uブックスと文庫クセジュを収録した「新書カタログ」には青柳い
づみさんによる巻頭エッセイ「ピアニストの読書術」も掲載。
ご希望の方に無料で送りますので、小社ホームページのカタログ
請求ページからお申し込みください。か「カタログ希望」と明記の上、
左記までご連絡ください。
Eメール catalog@akuhachaco.jp
電話 03(3291)7811/FAX 03(3291)8448

語学書

見やすい・わかりやすい・使いやすい！
会話から文法へ——はじめての入門書◆決定版

大好評の《ニューエクスプレス》シリーズ・新刊

「ニューエクスプレス・スペシャル ヨーロッパのおもしろ言語」

町田健[監修] 柳沢民雄、佐久間淳一、笹原健、清水誠、田村建一、町田健、萩尾生、吉田浩美、入江浩司、水谷 駿[著]
ISBN978-4-560-08540-0

ヨーロッパの言語というと、英語や独・仏語などの言語がすぐ思い浮かびますが、諸民族の数千年にも及ぶ移住・混合を経て形成されたヨーロッパには、私たちの想像を遥かに超えた多様な言語世界が存在しています。話者数数千万、あるいは億を超える言語に伍して自らの存在価値を守り抜こうとする、9つの言語を紹介します。◇A5判 188頁 定価 3570円(本体 3400円)

◎白水社ホームページで見本ページ・見本音声が見れます。

- アブハズ語：グルジア共和国アブハジア地方の言語。カフカース諸語
- エストニア語：バルト三国の1つエストニアの国語。ウラル語族
- ソルブ語：ドイツ東端の少数民族ソルブ人の言語。スラブ語族
- フリジア語：北ドイツ北端のフリジア人の言語。ゲルマン語族
- ルクセンブルク語：ルクセンブルク(人口50万)の国語。独方言から独立
- プロヴァンス語：南仏で話されている言語(オック語とも)。ロマンス諸語
- バスク語：ピレネー山脈西端からビスケー湾に広がるバスクの言語
- フェーロー語：アイスランド南方フェーロー諸島の言語。ゲルマン語族
- ロマニ語：いわゆるジプシー(約1千万人)の言語。印欧語族インド語派

「ニューエクスプレス マレー語」

フリダ・モハメッド、近藤由美[著] ISBN978-4-560-08533-3

マレー語はマレーシア、シンガポールの国語で、その他ブルネイ、フィリピン南部など東南アジアの広範囲で話されています。隣国のインドネシア語もマレー語起源で、マレー語と共通する部分が多くあります。クアラルンプール、マラッカなどの都市文化、野生動物の宝庫ボルネオ、高原と海のリゾートなど、魅力溢れるマレーシアを満喫するにはマレー語が必須!◇A5判 153頁 定価 2835円(本体 2700円)

「ニューエクスプレス トルコ語」

大川博[著] ISBN978-4-560-08537-0

多くの古代遺跡や世界遺産、料理、グラッドバザール……と多様な魅力をもつトルコで話される言葉が、文法的には日本語と似ているということをご存じですか。語順は日本語と同じ「主語-目的語-動詞」、その上「テニヨハ」もあります。この遠くて近い言葉を学んでトルコ人に話しかければ、きっと笑顔が返ってきて歓迎してくれることでしょう。◇A5判 145頁 定価 2625円(本体 2500円) 7月下旬刊

「東京大学文学部英文科講義録」と副題のついた渡辺利雄著『講義 アメリカ文学史』(全三巻、研究社)の『補遺版』が刊行された。補遺といっても六百頁を超す大冊。ダシール・ハメットに一章が割かれていたのがなんともうれしい。本書を読むと、読者は「全巻を入手して、最初から最後まで通読してみたい」という衝動に駆られるだろう。(若島正氏推薦)この作品はここが勘所なんだ、と名ガイドが付きつきりという気がさせられる。(松)

本の十字路

打ちしてくるるとは、贅沢さわまりない。ありがたいのは、読みのコツが会得できる(ように思える?)ことで、夜ごと、普段めつたに手にとらない英和辞典を引きながら名調子に聞き惚れている。かつて『篠沢フランズ文学講義』に感嘆した開高健は、自分分が年をとって足腰立たなくなつたとき、這つてもこの講義を聴きに行きたい、という意のことを述べていたけれど、この本もそういふ気にさせられる。(松)

白水Uブックス

U1116 「カフカの生涯」

池内紀[著] ISBN978-4-560-72116-2

「若くして亡くなった、奇妙な小説を書いた作家」という印象が強いカフカだが、その人生においてはさまざまな、ときには意外な顔をもっていた。有能な公務員としての業績、家業であった問屋や工場経営とのかわり、スポーツをはじめとする趣味や関心事、何人もの女性から愛され、彼女たちの性格にはある共通点があったこと……。

いかにしてこの人から、あのような作品が生まれたのか? 何が前提となり、どのような過程を経てカフカ文学となったのか?

「カフカ・コレクション」の訳者が、カフカ自身の言葉、日記や手紙、また作品という「精神の証言」をよりどころに作家の内面に忍びこんだ、楽しくかつ読みごたえあるユニークな評伝。

◇新書判 三三二頁 定価一六八〇円(本体一六〇〇円)

U1117 「社会契約論」

ジャン・ジャック・ルソー[著] ISBN978-4-560-72117-9

「政治について書くからには、お前は君主なのか、それとも立法者なのかと、人は尋ねるだろう。私は答える。いや、違う、そしてそうでないからこそ政治について書くのだ」

こうした視点で書きだされる本書は、「最初の社会」から論じ始め、正しい統治のあり方を導き出す。それは「民主主義の聖典」としての狭義の政治論にとどまらず、人類史の起源を描定して文明社会をトータルに批判する視座をも提供してくれる。

ただ「スペルタやローマでさえ滅びた」以上、その行論は明るさをもちえない。「人間に法を与える神々」である立法者や、祖国愛を強要する「市民宗教」に言及するなど、人民主権の実現には数多の困難が伴うことも鋭く指摘した。作田氏の名訳に川出良枝・東大教授の解説を付した決定版。◇作田啓一訳 新書判 二五六頁 定価二二六〇円(本体二〇〇〇円) 7月中旬刊

Q948 「ディオクレティアヌスと四帝統治」

ベルナルド・レニイ[著] ISBN978-4-560-50948-7

ディオクレティアヌスは、コンスタンティヌスとともに、ローマ帝政の前半と後半を画する時代の立役者である。本書は、紀元後三世の危機的状況から帝国を立て直し、さらに数百年間存続させることを可能にした数々の改革事業と、四帝統治体制の成立から結末までを解説する。四帝統治は、二人の正帝と二人の副帝による「不可分の祖国」の任務分割統治であった。また、キリスト教徒への迫害者のイメージが強いディオクレティアヌスだが、四帝統治の政治的イデオロギーに相容れないキリスト教に対して好意的ではなかったものの、当初、迫害を望んではいなかった。近年の研究に基づいた記述は、皇帝の新たなイメージを与えてくれる。◇大清水裕訳 新書判 一六〇頁 定価一〇〇三円(本体一〇五〇円) 7月中旬刊

「貿易実務のスペイン語 ビジネスメール例文集」

前田貞博[著] ISBN978-4-560-08539-4

スペイン語でのコミュニケーションは、スペインや中南米諸国とのビジネスの幅をより広げる鍵となります。本書では貿易実務の基礎を解説しながら、市場調査・引き合い・オファー・契約の締結・商品の輸送・代金の支払と回収・クレームなど、貿易の段階に応じたスペイン語メールの実例を紹介。挨拶や敬語など、ビジネス文書独特の表現も学べます。サンプルごとに重要語句を示し、関連する例文は「役に立つ表現」として項目の最後にまとめました。巻末に西和+和西の語彙・表現集もついた便利の一冊。◇A5判 194頁 定価 2940円(本体 2800円)

【お知らせ】ご愛読いただきました「再読愛読」は、前号で終了しました。次号から編集者が思い出の一冊を紹介する新コーナーが始まります。ご期待ください。

【お願い】住所表記が変更になりましたら、お名前、新住所・旧住所、お届けいたしております本紙のお客さまコードをお知らせください。

編集メモ

『サッカーが勝ち取った自由』のスタップで南ア料理の舍風ソーセージ。南アに最初に入植したオランダ系白人「ボーア人」からついた名。ロベン島刑務所で刑務官が食べていた料理かも。受刑者の食事は味気ないトウモロコシの粥だったのに。話題はW杯に移り、体温上昇。現地に思いを馳せ、身(胃)も心も南アに染まった熱帯夜の一晚だった。(蹴)

営業部だよ

本紙が皆様のお手元に届くときに、書店店頭には上巻の『毛沢東 ある人生』が並び始めることと思えます。今後も各社から中国に関する書籍が、例年になく大量に刊行されるのではないのでしょうか▼そんな意識が頭の中を占拠していたからなのか、表紙に「MAO」と大きく書かれた写真集を本屋で見つけ、とうとう毛沢東の写真集まで出版されたのかと思つた。それはスケートの浅田真央選手の写真集でした。

ことば紀行

第2回 林ひふみ

中国語

【主な使用地域】中国、台湾、シンガポール、マレーシア
【話者数】13億人
【使用文字】漢字、ローマ字
【あいさつしてみよう】你好! ニイハオ!(こんにちは) Nǐ hǎo!

中国語の魅力の一つは、さまざまな母語を持つ人たちの共通語だということ。日本の26倍ある国土に13億人が暮らす中国では、多数派の漢民族が話す言葉も、地域ごとに大きく異なる。

たとえば、上海語や広東語を話す人の数は、フランス語やイタリア語よりも多い。北京語を基礎とする標準中国語(普通話)との違いも大きくて、方言というより、ヨーロッパの各国語をイメージした方が近い。

同じく中国語を使う台湾では、全人口2300万のうち、73%が福建語系の台湾語を母語とする人々だ。ほかに客家が12%。第二次世界大戦後に中国各地から移住した外省人が13%。そして先住民が2%となっている。九州ほどの小さな島で、大きく分けても4種類の言語が日常的に使われているのだ。そうした多言語な社会の様子を知るには、台湾映画がおすすめである。

たとえば、1980年代以来、台湾映画界をリードしてきた侯孝賢監督。外省人だが、広東省梅県という客家地区の出身で、母語は客家語だ。自伝的要素の強い初期作品では、多言語生活の生む悲哀が描かれた。『童年往事〜時の流れ』(1985)の主人公は、台湾南部の港町高雄郊外で

恒春城西門

多言語な映画たち

語のバイリンガル。客家や先住民であれば、日常的に3言語を使い分ける。美しい南シナ海の砂浜や、甘く悲しい恋物語に加え、登場人物が場面や相手によって言語を切り替えるのも見どころの一つだ。日本公開時には、字幕に印をつけることで、台湾語と標準中国語が区別できるよう工夫されていた。

さらに日本統治時代に育った老人は今も日本語の歌を歌い、先住民の歌にもコウバ(工場)、タイホク(台北)など日本語由来の単語が出てくる。恒春半島は近代日本最初の対外戦争だった牡丹社事件(1874)の現場でもある。日本人ヒロイン友子の乗ったマイクロバスが、城門を通れずに立ち往生する恒春城は、なんと19世紀末に日本軍の侵略を防ぐために建てられたものだという。台湾映画は奥深いのだ。

(明治大学理工学部准教授)